

約2か月で節目となる入館者5万人を達成 高橋まゆみ人形館で記念セレモニー



人形館入口での記念撮影

7月1日、高橋まゆみ人形館では、5万人目の入館者を迎える関係者や報道陣で賑わいを見せていました。4月24日に開館して以来、当初計画(年間入館者予想2万5千人)を大きく超える入館者を迎え、今回入館者5万人目を約2か月で迎えることとなりました。

午後1時30分、5万人目の栄誉を手にしたのは、埼玉県富士見市より2泊3日の行程での旅行中に高橋まゆみ人形館を訪れた、内田昭三さん(ヒロコさん)ご夫婦。内田さんご夫婦は、突然のこと戸惑いながらも、歓迎セレモニーに臨まれ、高橋まゆみさんより花束と記念品、信州いいやま観光局の足立正則理事長より飯山市特産品(旬の野菜詰合わせ)、地元愛宕町の商店より記念品(彫金グッズ)をそれぞれ贈呈され、多くの報道陣からの取材に笑顔で答えてくれました。

高橋まゆみさんは、節目となる5万人目の来館者を迎え「スタッフのみなさんの努力があつて、5万人目の来館者を迎えることができました。本当にありがたいと思います」と心境を述べ、「みなさんの努力に添えるためにも(創作活動を)頑張つていきたい」との決意を語りました。

高橋まゆみ人形館では、定期的に人形の入れ替えや、季節にあわせた展示内容を工夫し、何回訪れても新たな感動を発見できる場を提供していく計画です。

- 開館時間(冬期間12月〜3月)
通常時 午前9時〜午後5時
冬期間 午前10時〜午後4時
- 入館料(団体・学生割引有り)
一般 600円
小中学生 400円
- 休館日 毎週水曜・年末年始

新緑の飯山を1029人が疾走! 北信州ハーフマラソン 第41回 飯山市ロードレース大会



ハーフマラソン・11km・6.5kmのレースでは、約700人も選手が一齐にスタート。濃い緑に彩られた田園風景の中を、選手達の長い集団が駆け抜けていきました。

7月4日、第41回飯山市ロードレース大会が長峰スポーツ公園多目的グラウンドをスタート・フィニッシュ地点として開催されました。

今大会では、新たにハーフマラソンのコースを追加し、11キロ、6.5キロ、2.5キロ、1.8キロの5コースをそれぞれ年齢別、男女別の種目とし、過去最高となる1029名もの選手が出場しました。

当日は朝から小雨の降る天候でしたが、ロードレースには最高のコンディションで、参加者は都市マラソンとは一味違う自然豊かな新緑のコースを楽しみながら競技に挑んでいました。

コースの前半と後半に勾配のきつい坂があるため、「初心者にはやや難しいコースなのは」と心配の声もありましたが、参加した多くの選手からは「沿道の景色を楽しみながら走れる良いコース」との評価をいただき、「来年も練習を重ね挑戦したい」との声も聞かれました。

大会事務局では、来年以降もさらに内容を充実させながら、大会を開催する予定にしています。

今大会の競技結果は、飯山市ホームページでも公開しています。

子どもから大人まで楽しめる ニュースポーツ講習会

【お問い合わせ】スポーツ生涯学習課 スポーツ振興係 ☎62-3111 内線 353 354

簡単に覚えられて、子どもから大人まで楽しめる「ニュースポーツ」の講習会を今年も下記の日程で開催します。好評の「ソフトディスクアルティメット」や「キンボール」などのニュースポーツを体育指導員が親切でわかりやすく指導します。地域や学校の行事などで楽しんでみませんか。(事前の申込は必要ありません)



キンボール



ソフトディスクアルティメット

- 開催日(各木曜日)
8/19 10/28 11/18 12/16
- 時間 午後7時〜8時30分
- 会場 飯山市民体育館
- 参加料 無料
- 持ち物 上履き タオル など

市長の

悠久のふるさとづくり ②②

飯山市長 石田正人



原風景の残る飯山。毛無山万仏山から高社山とつづく東山。斑尾山・墨岩山・鍋倉山と80km以上も連なる関田山脈の西山。日本一おいしい米と評された水田も、日ごと緑の濃さを増しています。

信越トレイルを歩きながら、70有余年生きて、あらためてみる悠久のふるさと飯山は、濃い緑に彩られる中、悠々と流れる千曲川の美しい自然景観に、まるで吸い込まれていくような、言葉では言い表せない程の素晴らしさです。

ウグイスの声も聞こえ神秘的にさえ感じられる山に入ると、残雪の間からもしつかりとタケノコ(根曲がりダケ)が生えてきています。私たちは、日本一の積雪地という厳しい自然環境の中で、山が育ててくれた恵みを楽しませていただいていることを忘れてはいけません。

飯山の食文化「タケノコ汁」も、先人達が山に木を切りに行く時に、むすびと味噌とサバ缶を持ち、湧水をくみ周りのタケノコとサバ缶、味噌を鍋に入れるだけで素晴らしいおいしい料理ができるとの経験から生まれたと思います。また、ワラビ・ゼンマイ・タケノコなどを採ってきて料理するのも、山の恵みを活かした飯山の大切な食文化です。

現在その大切な山の木が枯れてきています。先人たちは、命がけで集落の山を守りながら、冬に備えて木炭を作り集落の燃料を協働で確保してきました。また、山の整備をして新たな木を育てることで山の幸も育ってきました。それが今では山の整備に入る人は少なく、自分の家の山がどこにあるのかさえ解らないという声も聞こえてきます。

山の木が枯れる原因は虫かも知れませんが、整備されない老木は虫が付きやすくなるともいわれ、人が山に手を入れないとなつたのが本原因かもしれません。

原風景の残る飯山の山を想い、考えてみる時が来たのではないのでしょうか。